

向井美恵 著

お母さんの疑問にこたえる 乳幼児の食べる機能の気付きと支援

(公財)ライオン歯科衛生研究所
武井典子 (歯科衛生士)



B5判/144頁
定価 4,200円
(本体 4,000円 + 税 5%)
医歯薬出版刊
(2013年4月発行)

近年、「食」を取りまく環境は大きく変化し、国が「食」にかかわる諸問題に対しても法的な基盤をもって、国民の支援を行う必要性が出てきました。2005年には「食育基本法」が公布され、2006年には「食育推進基本計画」が提示されました。2009年には、本書の著者である向井美恵先生を委員長に、「歯科保健と食育の在り方に関する検討会報告書(厚生労働省)」がまとめられています。この報告書において、ライフステージごとの「食べ方」支援を通じた食育推進の必要性が示されました。具体的には、小児期は「食べ方を育てるステージの食育」、成人期は「食べ方で健康を維持するステージの食育」、高齢期は「食べ方で活力を維持するステージの食育」として、全身の健康や生きる力の向上を目指しています。さらに2011年には、「第2次食育推進基本計画」が提示され、ライフステージに沿ったシームレスな食育の推進が強調されています。

一方、歯科衛生士を取りまく「保健・医療・

介護」の環境も大きく変化しています。超高齢社会を迎え、健康寿命の延伸が社会的に大きな課題となり、歯と口の健康を通じた生活習慣病の予防や、介護予防における口腔機能の維持・向上等がますます重要となっています。つまり、むし歯や歯周病を予防するだけでなく、ライフステージに対応した口腔機能の維持・向上が求められています。いつまでもおいしく食べ、楽しく会話できることは国民の願いでもあり、その実現のためには小児期に食べる機能を高めておくことが大切です。

このような状況のなか、まさにタイムリーに本書が発刊されました。本書は、内閣府や厚生労働省のさまざまな委員を歴任された著者の立場から、国の考え方に基づいた内容が記載されています。また、お母さんの子育てに関する多数の疑問に対して、子どもの現状にどのように「気付き」、どのように「支援」すべきかについて具体的に記載されています。歯科衛生士が臨床現場で乳幼児の食べる機能を支援するための考え方やノウハウが満載されている一冊です。

さらに、近年はさまざまな活動でそれぞれの専門職とチームで医療が行えるよう、メディカルケアプロフェSSIONALの一員としての、「歯科衛生士の専門性の確立と貢献」も求められています。本書は、これまでの研究結果に基づいたEBMや客観的データを基本に記載されており、こうしたニーズに応えるうえでも有用です。多職種との連携や、歯科衛生士としての専門性の確立と貢献のために、本書を熟読することをお勧めします。